

市民企画講座「ふるさと安城原風景みつけ隊」（生涯学習課）事業

安城の原風景 写真集

～未来に語り継ぎたい景色～



令和元年12月24日

ふるさとの原風景みつけ隊

<目 次>

序 文	
1 城ヶ入から見た半場川（城ヶ入町）	1 頁
2 レンゲ畑（榎前町）	2 頁
3 ナシの花園（福釜町）	3 頁
4 和泉のマツ林（和泉町）	4 頁
5 庚申さん（安城町）	5 頁
6 小山のマツ林・雑木林（高棚町）	6 頁
7 東海道マツ並木（東栄町）	7 頁
8 お鉄砲山の松林（赤松町）	8 頁
9 はざかけ風景（赤松町）	9 頁
10 麦秋（和泉町）	10 頁
11 半場川のススキ（和泉町）	11 頁
12 旧上倉池跡（今池町）	12 頁
13 木造姫樋橋（姫小川町）	13 頁
14 長田川のどんどん（福釜町）	14 頁
15 柿碕の湧き水（柿碕町）	15 頁
16 踏み車（赤松町）	16 頁
17 花の木用水のはねつるべ（福釜町）	17 頁
18 夕景（福釜町）	18 頁
19 町名遺跡 釜ヶ淵（福釜町）	19 頁
20 山車2基（花ノ木町）	20 頁
21 町内の安全を守る常夜燈（小川町）	21 頁
22 西岸寺の鐘楼（福釜町）	22 頁
23 小栗新田の稲荷社（福釜町）	23 頁
24 城ヶ入の子安観音（城ヶ入町）	24 頁
25 鎌倉街道のお地藏さん（里町）	25 頁
26 地藏堂とお地藏さん（和泉町）	26 頁
27 黒堀のある家並（和泉町）	27 頁
28 漆喰となまこ壁がある家（和泉町）	28 頁
29 旧明治郵便局（和泉町）	29 頁
30 和泉のそうめん作り（和泉町）	30 頁
31 参加者の声	31 頁
32 原風景の位置図	33 頁
あとがき、執筆者一覧	36 頁

序 文

愛知教育大学名誉教授・日本メダカ学会会長
岩 松 鷹 司

日本デンマークと言われた安城市は人間性を尊重した魅力ある生活環境づくりと都市機能の充実をめざすとともに、西三河地域の発展の一翼を担う町づくりを推進することを目指しました。たとえ、地域社会の経済環境が高度情報化・国際化、市民の高齢化、価値観の多様化などによって変化しても、安城市の望ましい都市像「光と緑あふれる産業文化都市」は変わりありません。

生き物が地域環境に適した体の形態的な特徴を増築方式で保持したまま進化しているように、安城市民の望む都市形態も、時代が変わってその機能の改編と多様化をしても伝統的な形態を残したまま発展させていくのが理想のように思われます。西三河に位置する山並みのない緑の田園風景の広がる安城地域特有の自然と伝統的安城建築物、町並みなどにみる都市景観と自然の風景は、遠い昔から農業で生き抜いてきた先人たちの心（価値観）とその生き様、また遺志でありましょう。そうした安城の先人が残した生活・文化の歴史である原風景を尊重して、新たな機能を付与しても、それを活用することによって残していくべきでありましょう。また、類のない田園風景をなす生産性の高い優良農地も安城の誇る原風景として保全されるとよいと思います。今なお、田畑の風景に見る麦畑、レンゲ畑などは私たちの幼いころの思い出、心のよすが、そして癒しになるものであります。さらには、先人のなした偉業を顕彰する風景も、新たに策定して原風景として大切にしたいものです。

私たちの生活環境の中で、心の潤いと体内の反応に不可欠な豊かな水と共に、光は明るさと暖かさをもたらすばかりでなく、すべての動植物の体の動きの働きのために大切です。とりわけ、それらの恩恵によって繁茂する植物の緑は、酸素を作り、炭酸ガスを吸収して私たち動物を生かしてくれています。先人はそのことをよく知っており、子供が生まれると、その生涯を通じて出し入れする酸素・炭酸ガスを処理できる草木を庭に植え、暴風、光、水分、動物との共生、四季折々の抒情をもたしなむ心を私たちに残してくれています。こうした働きのある草木も身近にみる原風景であります。また、工場でも出す排出ガス・排水をも処理してくれる樹木を植えることは、持続的繁栄のための社会の形態づくりにつながりましょう。どの地域でも、神の許しなしには手の付けられない鎮守の森は、緑深々と神々が宿る厳粛な佇まいが守られている自然の姿です。鎮守のお祭りは、遠い先祖の代から連綿と続いている原風景であり、人々が年に一度厳かな自然に触れ神仏と対面する機会であります。

自然を愛し、元気で互いに助け合い、明るく住みやすく美しい街づくりを目指す「安城市民憲章」に則り、市民と行政の支援によってこうした素晴らしい原風景を持続的に保全することを熱望します。

これら昔からの生活に密着した伝統的な風習・文化が、安城市のあちこちの原風景となって見ることが出来ます。それら安城の先人から受け継いでいる風景は、安城市の目指す都市像「光と緑あふれる産業文化都市」とともに、子々孫々の心に生き生きと引き継がれ、残されるべきものであります。

この度、これからの安城の発展に対する市民の意識を高めるためにも、私たちは貴重なふるさとを保全する大切さを痛感しましたので、これらの写真をこの小冊子に収めました。これらの写真集は、「素晴らしい安城を知る散策ルート」を策定する上にも役立つものであります。

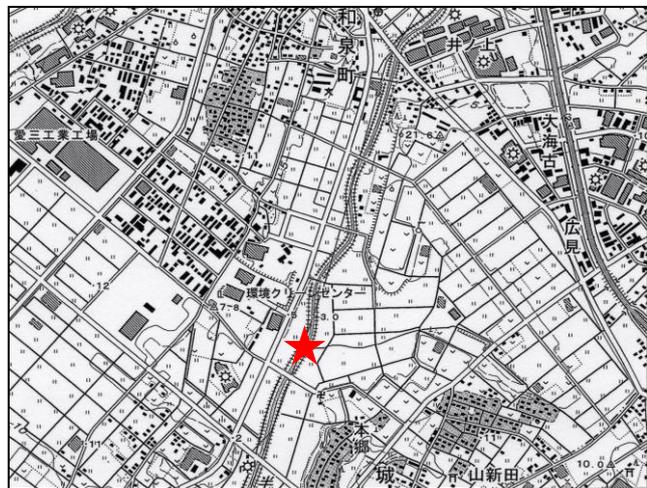


【農家（大正時代に撮影）】

1 城ヶ入から見た半場川（安城市城ヶ入町西海）



半場川には、メダカ・ハゼ・カエル・エビなどの生き物がたくさんいて生き物の楽園になっています。そこは子どもたちが遊べる数少ない場所です。昔ながらの土手

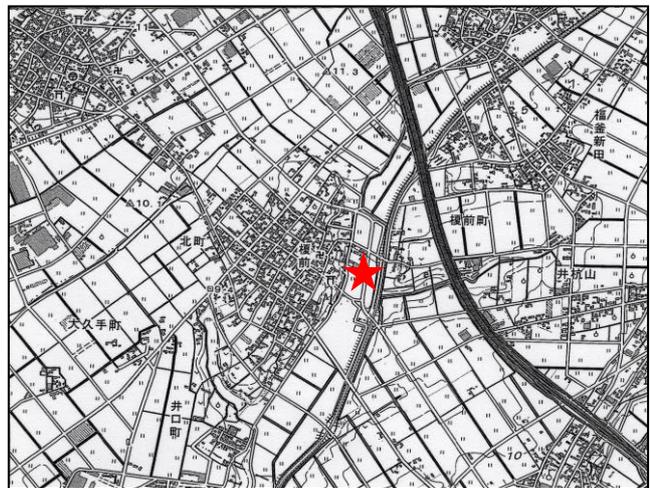


のままの景観が残っており、このような環境が末永く続くように保存したい風景です。

2 レンゲ畑 (安城市榎前町宮下)



安城市が日本デンマークと呼ばれていたころ、春になるとどの田んぼにも花が咲き誇り、レンゲの花園が見られました。その花がミツバチの蜂蜜になったり、その根が



田んぼの肥料になったりしました。最近では、景観作物として復活の兆しがみられ、一面の田がレンゲ畑のところもあります。

3 ナシの花園（安城市福釜町河原）



ナシは明治時代からの安城の名産品です。桜の花が散り終わったところに、梨園で一斉に開花します。白くてかわいい花が咲き誇り、梨棚が花のアーケードのようになり

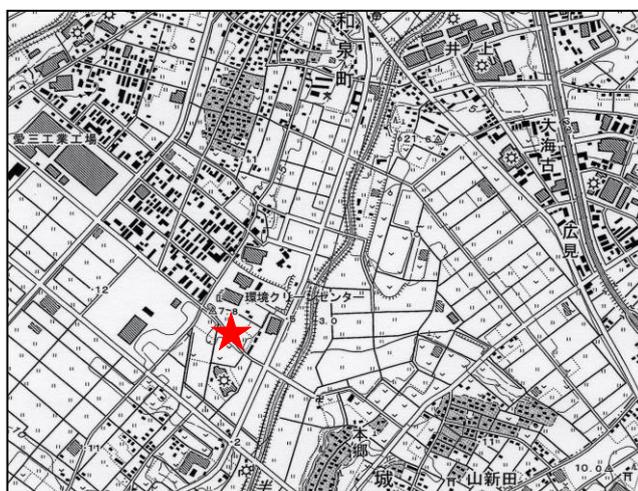


ます。農家の方には、この後の受粉作業が待っていて忙しくなりますが、収穫の喜びを楽しみにしています。

4 和泉のマツ林 (安城市和泉町大下)



安城市環境クリーンセンターの近くに、かつての安城ヶ原をイメージさせるマツ林の面影が、ひっそりと今も残っています。昭和時代の初期には、このような景観が



たるところにあった懐かしい風景です。かつて、ここの丁拝山には伊勢神宮遙拝所があり、村人たちの特別な場所になっていました。

5 庚申(こうじん)さん (安城市安城町庚申)



クスノキの隣にある小堂は、庚申さんと地元の人に親しまれ、道の辻や寺社の墓地の入り口などに置かれ、延命長寿にご利益があると言われています。コンクリート製



の小堂には、青面金剛明王石像(しょうめんこんごうみょうおうせきぞう)が安置されています。地域の人たちが大切に祀っています。

6 小山のマツ林・雑木林（安城市高棚町茨池）



昭和40年代、安城のいたるところに点在し、田んぼの片隅にあった小高い雑木の小山です。農繁期になると仕事の合間に、木陰の下でお茶を飲んだりお昼の弁当を食べ

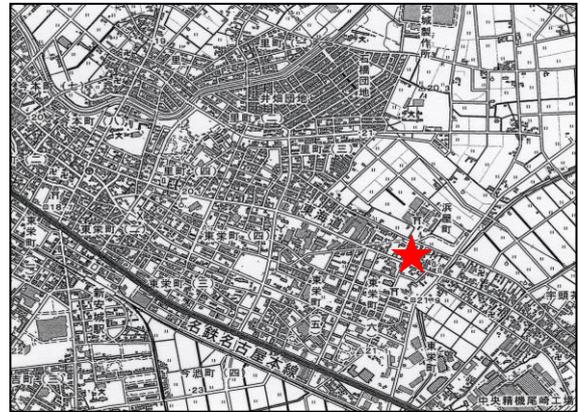


べたりした大切な休憩場所でした。秋には、シメジ・ナメコなどのキノコが獲れ、さらに、雑木は農家の大切な燃料として利用されました。

7 東海道マツ並木 (安城市東栄町高根)



安城市内を通る旧東海道は江戸時代に整備され、岡崎宿と知立宿を結んでいます。その間に、大浜茶屋・宇頭茶屋の旅人用の休憩所があり、その地名が今も残ってい

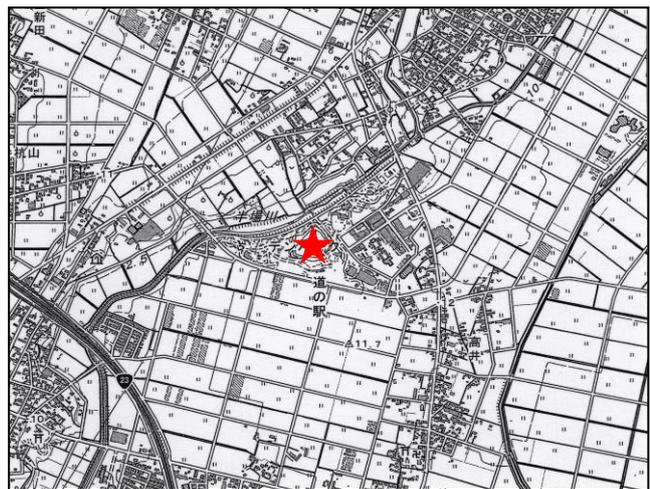


ます。かつて、この松並木は行き交う人々に緑陰の憩いを与えていました。現在は街道沿いに工場が連なり、工業製品を運ぶトラックの往来が目立ちます。柿田公園からこの旧東海道に出て東進し、明治川神社、永安寺、雲龍の松、熊野神社、岡崎航空基地跡へと至る街道は、ウォーキングにも最適です。

8 お鉄砲山の松林 (安城市赤松町西下)

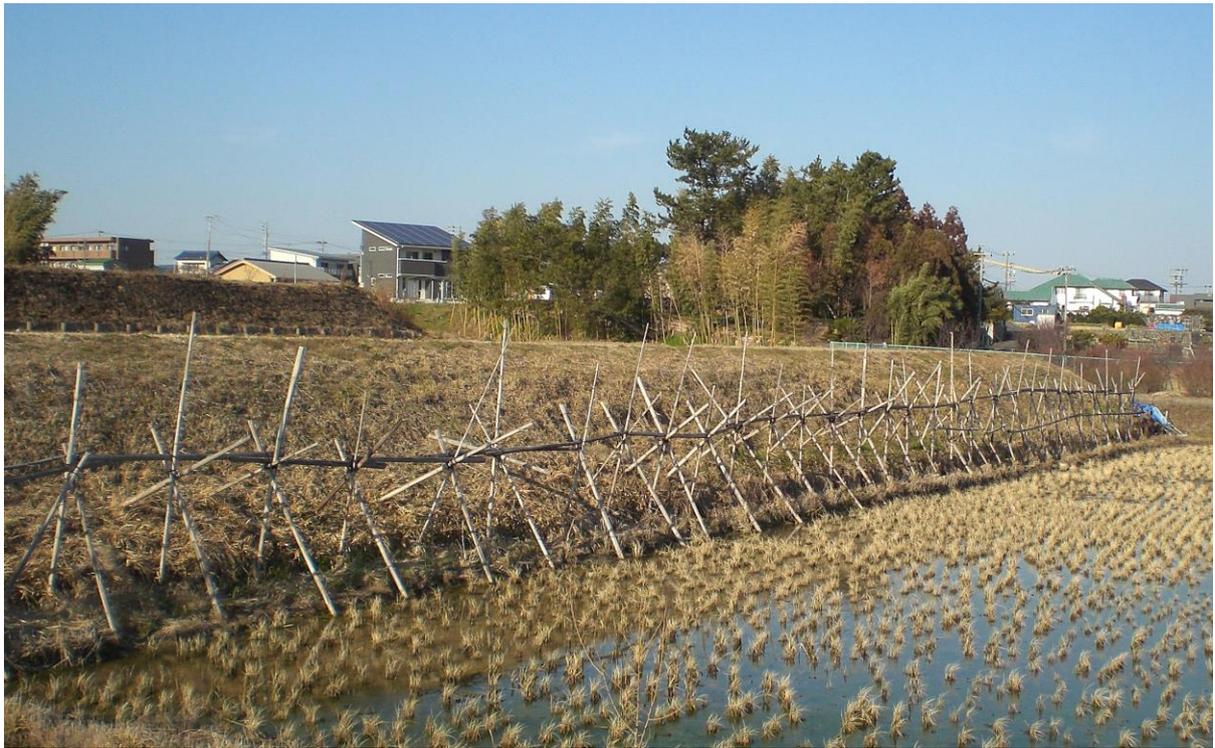


安城ヶ原の南端に保存された松林です。昭和40年頃より農業機械の大型化が進み、生産効率を上げるために圃場整備事業が実施されました。この事業により多くの

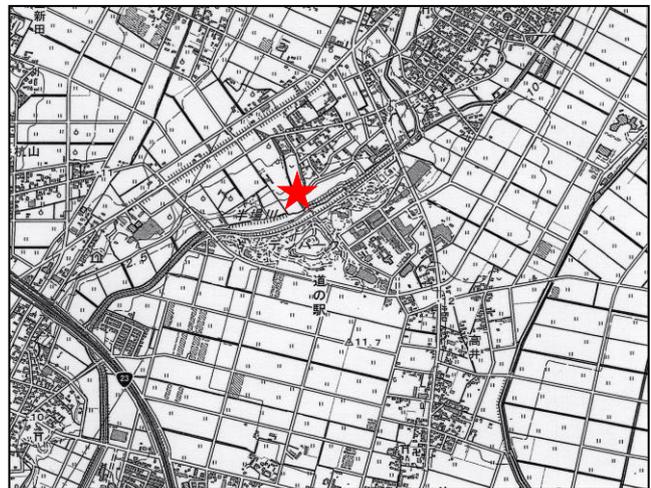


植物や生き物が姿を消し景観も一変しましたが、当時の企画担当者が、日本デンマーク時代の姿をぜひ後世に伝えたいという思いで残された場所の一つです。半場川を眼下にして見るデンパークは、当時のお鉄砲山の姿を思い起こさせてくれます。

9 はざかけ風景（安城市赤松町西下）



田植え・草刈りと手間のかかる農作業を協力し合った後、稲刈り・脱穀作業が続きます。刈り取った稲を木で組んだはざにかけ、天日干しします。やがて、太陽や水の恵

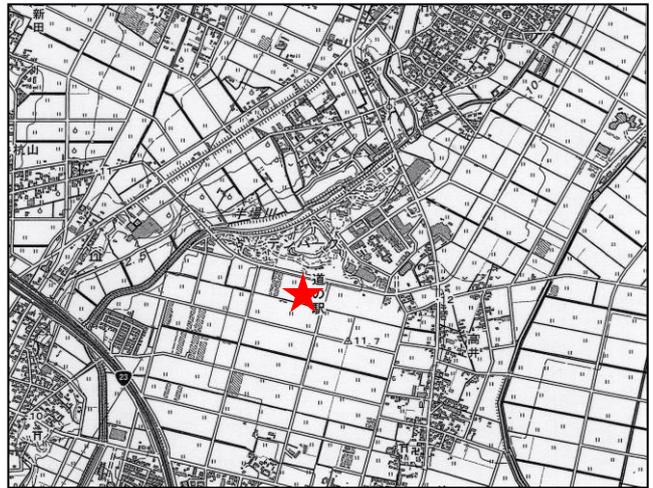


み・人の労力が自然に結実して美味しい米になります。日本人として、このご飯をいただくことに至福の喜びを覚え、感謝の気持ちをご先祖様に伝えたいくなります。日本デンマーク時代の田園風景を味わわせてくれています。

10 麦秋 (ばくしゅう) (安城市和泉町小塚)



この地域が、日本デンマークと呼ばれていたころの田園風景を思い出します。上空にヒバリが舞い上がり、のどかな春の風景として郷愁を覚えます。小麦は梅雨入り前



までに収穫したものです。レンゲ畑の風景と共に、今は少なくなってきました。

1 2 旧上倉池跡（安城市今池町上倉）



日本デンマーク時代を彷彿させる田園風景です。以前はこのあたりに、上倉池という広大な溜め池がありました。明治13年にできた明治用水は、矢作川の水源から上

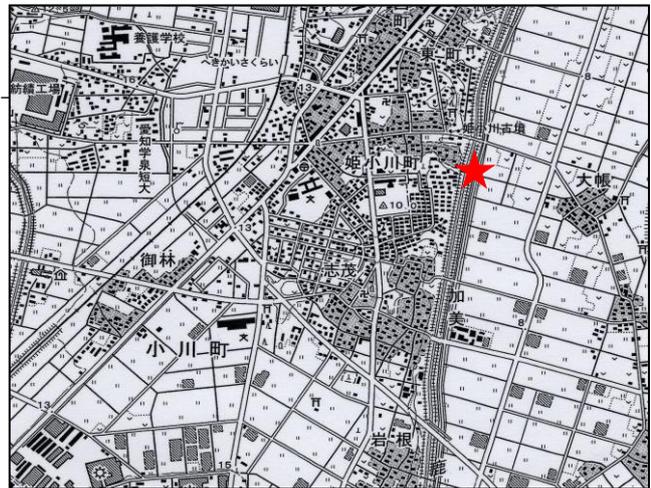


倉池まで通水され、手前の上倉用悪水は、その池の水が流れ落ちていました。埋め立てられた上倉池を二分するように名鉄名古屋本線が横切り、その南半分が田園地帯として、往事の姿を物語っています。

1 3 木造姫樋橋 (ひめといばし) (安城市姫小川町姫野池)



鹿乗川でみられる唯一の木造の橋で、昔の面影を残しています。橋の大きさは幅1.6m、長さ26mで細長く、児童・生徒の通学路やみんなのウォーキングコースにな

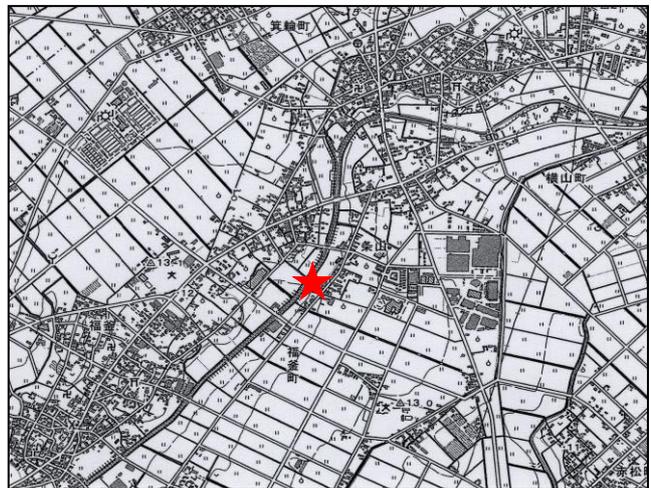


っています。橋桁まですべて木造で、写真愛好家にも人気スポットになっています。川にはカメが甲羅干ししていたり、コイがゆうゆうと泳いでいたりします。かつて、ここで遊び魚を捕まえて食べていたと、古老から懐かしい話を聞いています。

1 4 長田川のどんどん（安城市福釜町条山）



大正時代で電気が一般に普及していなかった頃、ガラ紡機械の動力源として水力を利用していました。長田川の水を引き込むために堰を設け、そこから導水路を引い

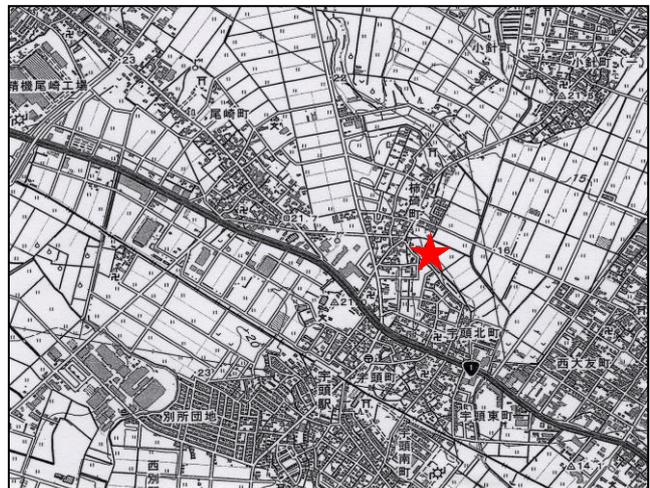


て水車を回していました。安定した水量を確保するために堰のところで水位を調整します。電気の普及とともに水力は必要なくなり、堰もいなくなりました。その名残が今でも見られ、地元では、それを「どんどん、がたん」と親しんで呼んでいます。

1 5 柿碕の湧き水（安城市柿碕町南屋敷）



このあたりには、碧海台地との高低差により、あちこちに湧き水が出ているところがありました。ここでは、共同でその湧き水が利用できるようにマスを作り、野菜を

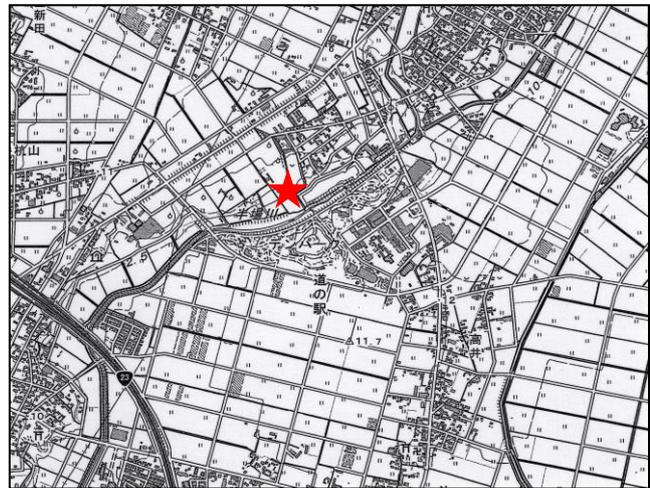


洗ったり衣服を洗濯したりしていました。井戸水と同じように夏は冷たくてスイカなどを冷やしていました。湧き水を生活水として利用できる、安城で唯一の場所になっています。地元のコミュニケーションの場にもなる楽しい空間です。

1 6 踏み車 (安城市赤松町西下)



足で板を1枚ずつ踏み込んで水車を回し、田に水を入れていきます。稲に恵みの水を一面に満ちるまで送るのにとても多くの時間と労力を必要とします。田には、メ

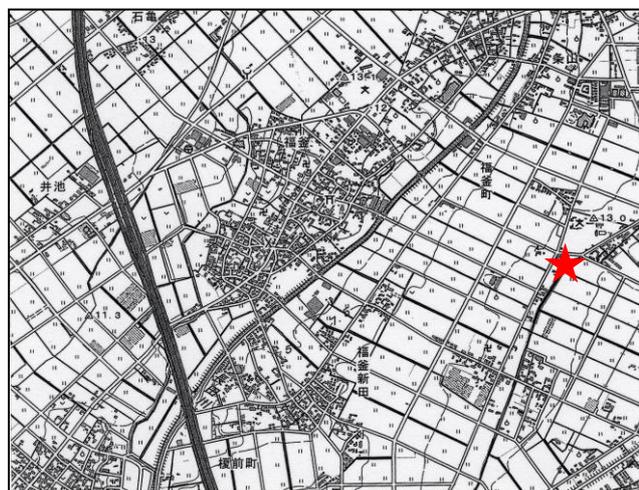


ダカ・エビ・カエルが気持ちよさそうに泳ぎ、幸せそうに生き物の世界を広げていて、環境・生き物・人にも優しい田んぼです。稲を育てるのに手間暇かけて愛情を注ぎ、収穫した米は最高に美味しいです。昔ながらの水田も大切に受け継いでいきたいです。

17 花の木用水のはねつるべ (安城市福釜町東湫)



花の木用水は明治用水中井筋の支流であり、今は上部がサイクリングロードになっています。地元ではこのあたりを 10 番ロードと名付けて親しんでいます。かつては、



明治用水の水を田畑に入れるために、はねつるべを利用していました。復元したはねつるべは、シーソーのように支柱を中心に片方の容器に水を汲み、もう片方に重しがついています。人力で何度も作業を繰り返して必要な水を確保していました。